

経営比較分析表（令和5年度決算）

兵庫県栗栗市 公立中央総合病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	12	対象	ド透訓	救臨へ輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
34,572	14,078	－	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
199	－	－
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
－	－	199
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
158	－	158

グラフ凡例
■ 当該病院値（当該値）
－ 類似病院平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 （従来の再編・ネットワーク化を含む）	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
－ 年度	－ 年度	－ 年度

I 地域において担っている役割

西播磨北部地域の特定中核病院として、2次救急医療や周産期医療の提供、また、市内で唯一の病院として本市の地域包括ケアシステムの基幹病院として、急性期から回復期までの診療を行うとともに、退院後の在宅医療まで一貫した地域完結型医療を構築し、市民に安全で安心な医療を提供する。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和5年5月8日以降、段階的にコロナ病床を縮小し運営した。それに伴い、入院収益が増加したものの、PCR検査等を行う患者が減ったことにより外来収益が減少した。医療収益全体では増加したことにより、医療収支比率・修正医療収支比率・病床利用率は前年度を上回った。新型コロナウイルス感染症関係補助金の減少や給与改定に伴う人件費の増加等により経常収支比率は前年度を下回る結果となった。病床利用率、材料費対医療収益比率以外の項目においては、類似病院平均値を上回る水準を維持できている。令和6年度では、コロナ病床を解消したため、病床利用率は上昇していくと考えている。また、材料費対医療収益比率は、類似病院平均値より高い状況であることからジェネリック医薬品の採用推進や診療材料の効率的な使用に努め、経費削減を図っていく。

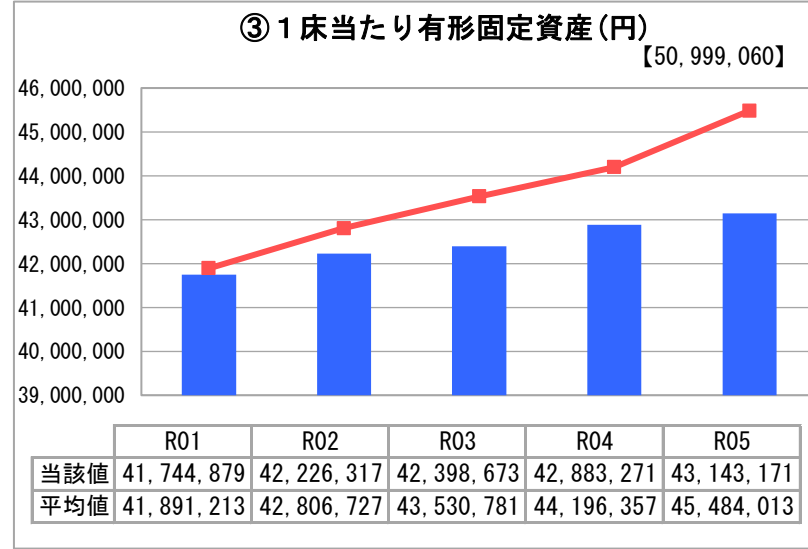
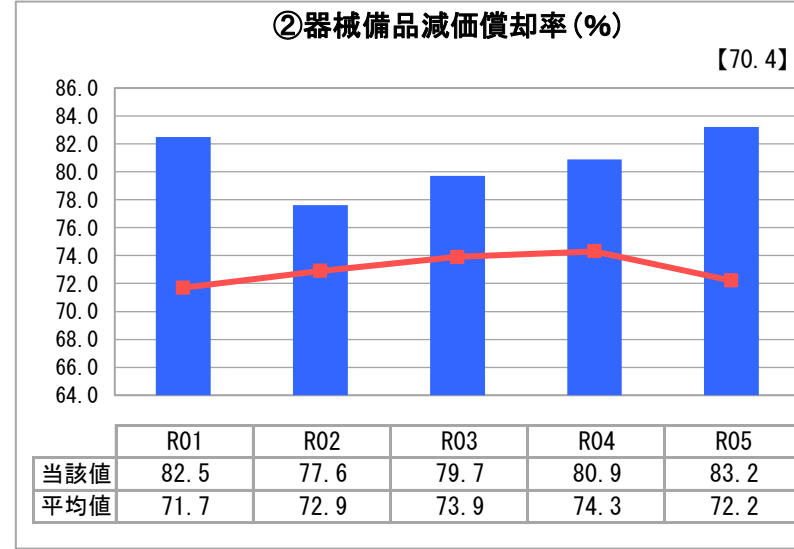
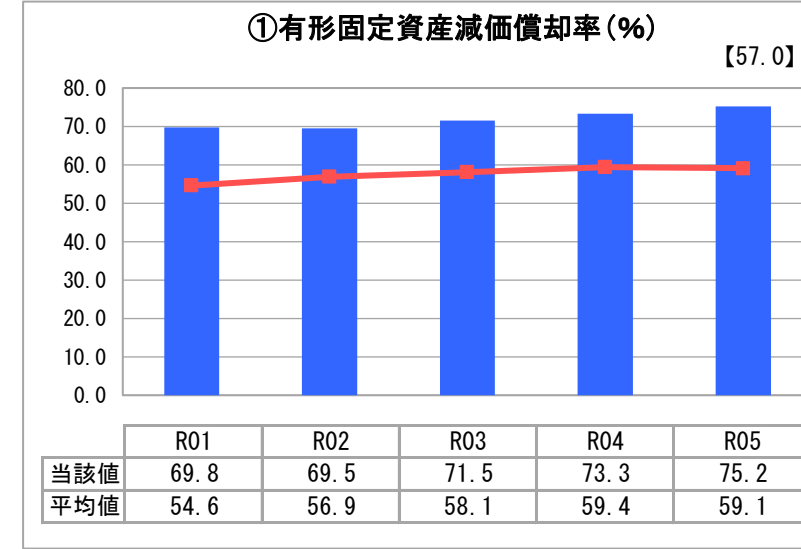
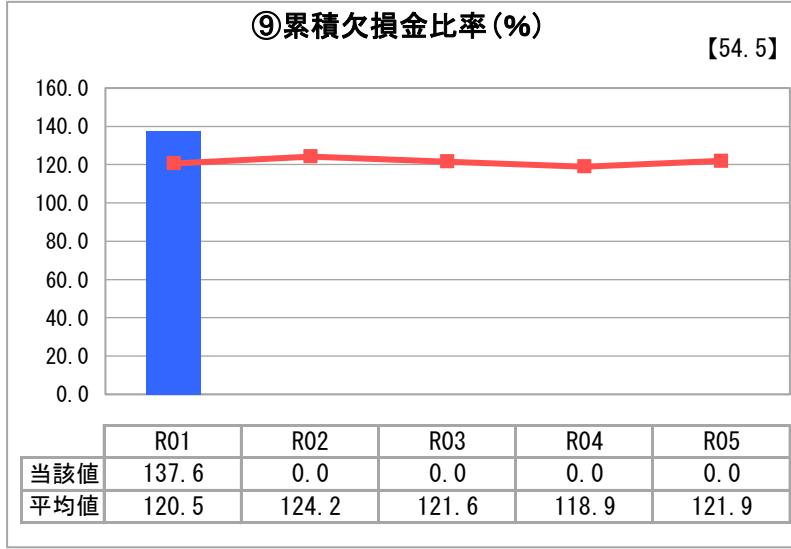
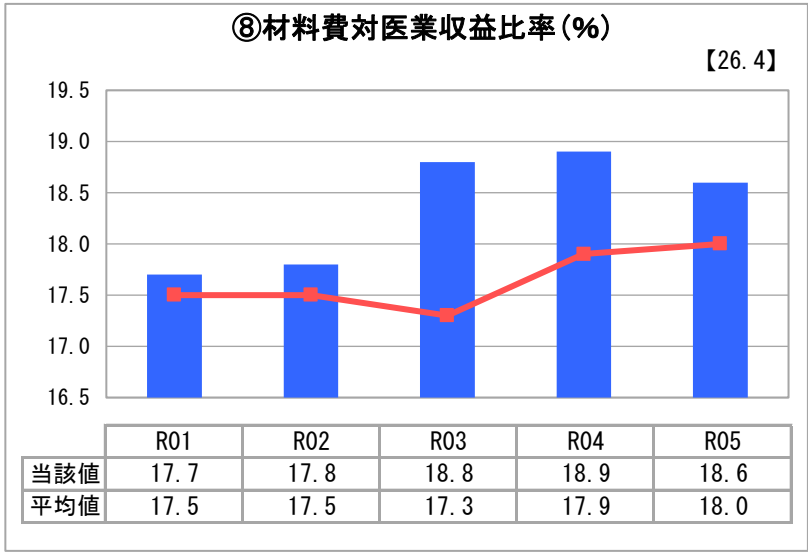
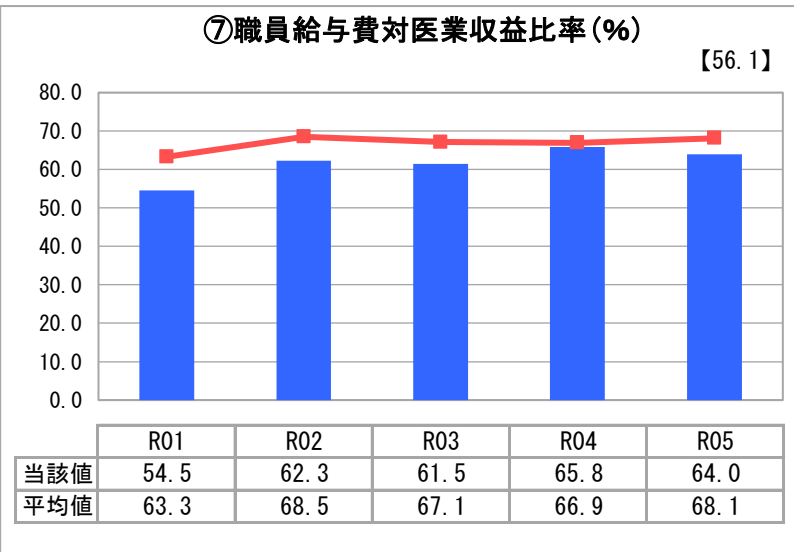
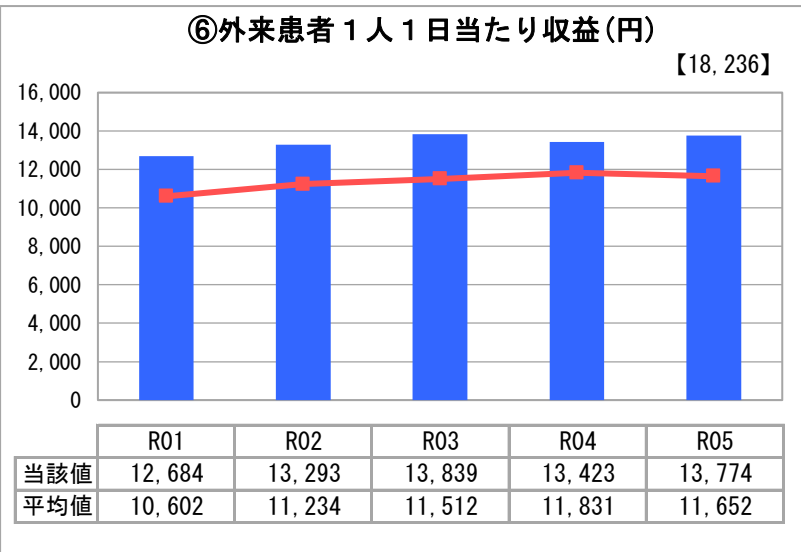
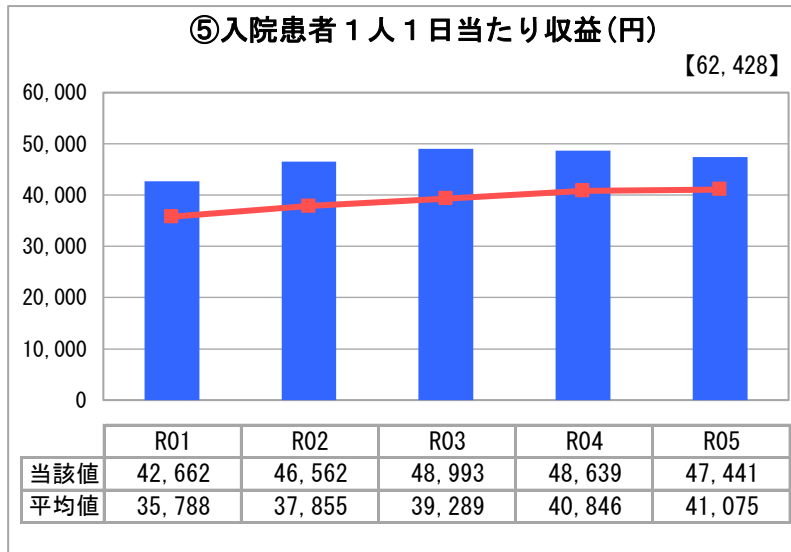
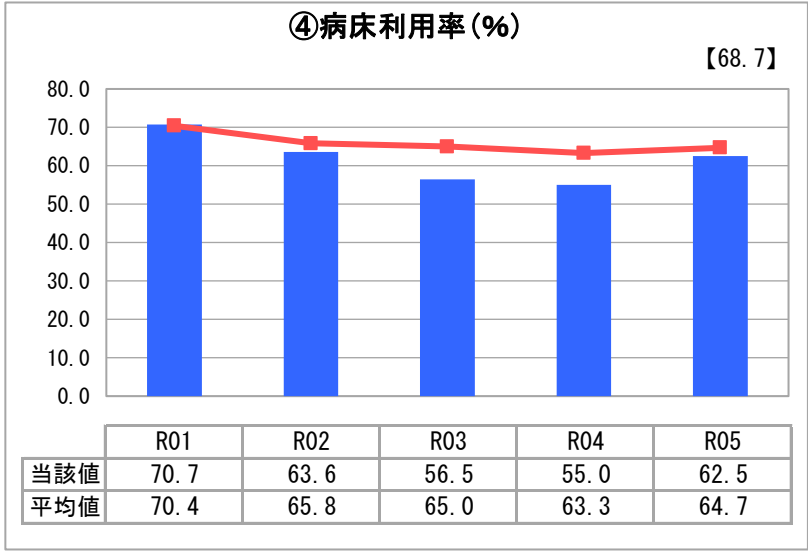
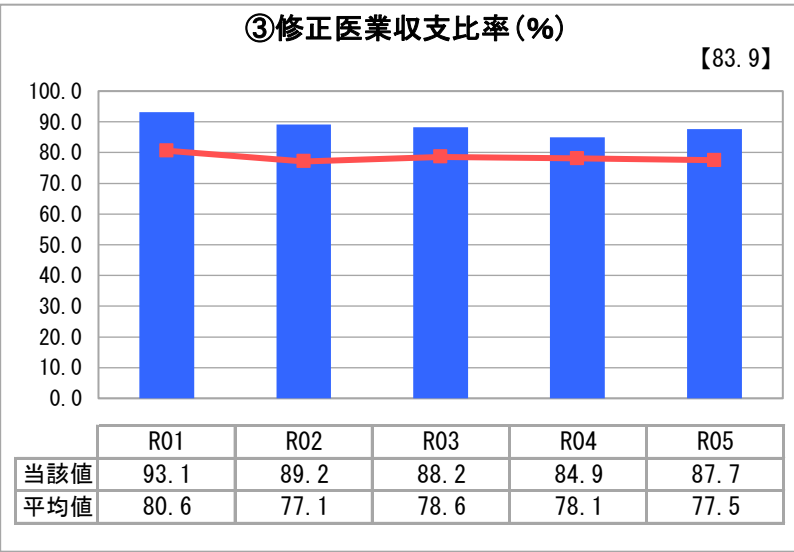
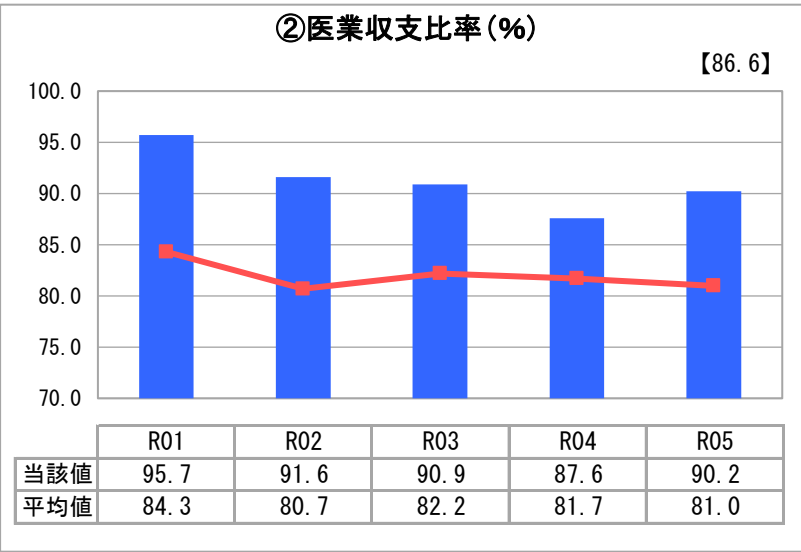
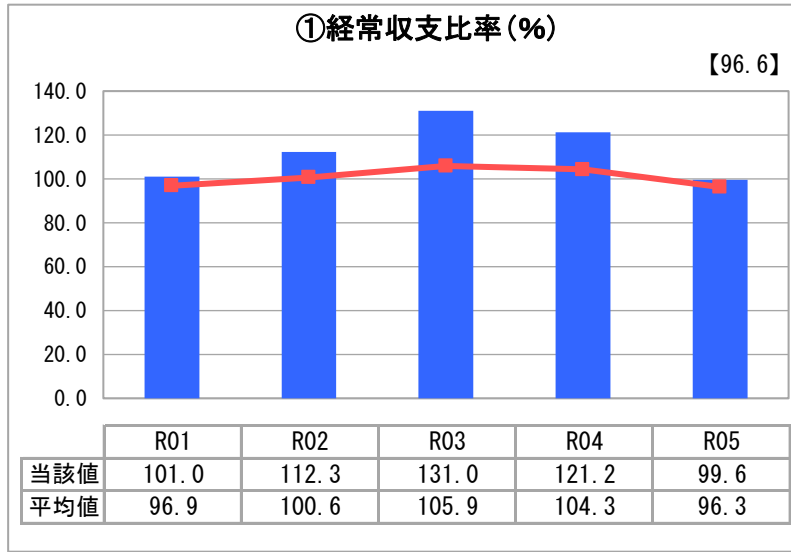
2. 老朽化の状況について

現病院は、建設から39年が経過し、新病院整備を進めており、有形固定資産減価償却率については、減価償却が進んでいるため類似病院平均値より上回っている。器械備品減価償却率についても、類似病院平均値より上回っており、器械備品の老朽化が進んでいる。1床当たり有形固定資産については、類似病院平均値に比べ、投資額は低い状況だが、現病院だけでなく新病院を踏まえ計画的かつ長期的な投資を行っていく。

全体総括

令和5年5月8日以降、段階的にコロナ病床を縮小し運営したことにより、入院患者数は前年度より増加した。PCR検査等を行う患者が前年度より減ったことにより、外来患者数は前年度より減少した。それに伴い、外来収益は減少したものの入院収益が増加し、医療収益全体では増加となったが、コロナ関係補助金の減少や給与改定に伴う人件費の増加等により、平成30年度以来5年ぶりの赤字となった。経営強化プラン及び、それに伴うアクションプランを策定しており、それに基づき経営改善に努める。また老朽化対策として新病院整備を進めており、令和6年度では基本設計・実施設計に取り組んでいく。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。